

# 1日目(9月6日) セッション概要-II

## MS-1 現場力を戦略へ 13:10 日本流ものづくりのITコンセプト:FOA

東京大学 経済学部MMRC 特任研究員  
玉川大学 工学部 客員教授 奥 雅春

### 【セッション概要】

変化の激しいグローバル競争に生き残るためには「過渡期の常態化」を前提にした対応が必須である。この鍵となるのが、現場の生のイベントを「意味ありメッセージ」にして組織知(ノウハウ)として共有することであり、これが組織の俊敏さに不可欠な「気づき」を生み出す原動力になる。これを実践することから生まれたのがFOAIIである。

FOAIIは、ものづくり現場主導の「軽い」IT活用を可能にし、必要なアプリをアジャイルに開発する環境を提供する。

【講演者略歴】(株)プリテス 元取締役常務 生産および生産技術管理。プリテス社にて主に生産・生産技術畑を歩む。1999年から買取直後のファイアストン社に派遣、帰国後も20年に渡ってその立て直しに従事。その中で生まれたFOAを刷新し、新コンセプトとして提唱している。

## MS-2 “PM活動そのもの”の品質保証活動事例 14:15 プロジェクト運営を円滑化し、リスクを緩和する手法。その特徴・特性をまとめた。

パナソニックSSインフラシステム株式会社  
品質保証チーム 前田 裕幸

### 【セッション概要】

プロジェクト外の“第三者”(品質管理部門など)にとって、“進行中の”プロジェクトの実態/内情を適切に把握して、有効かつタイムリーに改善・立て直しに繋げる事は難しい。しかし、第三者でも、継続的なモニタリングと適切な助言を行うことで、「プロジェクト(マネジメント)のリアルタイムな改善」が可能となる。これにより“事業リスクの緩和”はもとより、PM職能の育成・認知を促進する可能性も確認されたため、その活動内容および特徴・特性を整理し、事例として報告する。

【講演者略歴】1990年:松下電器産業入社 カーナビの測位機能の開発(1996年より開発リーダー) 2000年:ETC料金システムの開発リーダー 2004年:所属事業部のCMM公式アセスメント受診を機に、SQA(ソフトウェア品質保証)担当、CMMI社内アセッサーとなる。

## MS-3 反常識の型破り経営術 15:35 発想と差別化でローテクも勝てる!

未来工業株式会社  
取締役相談役 山田 昭男

### 【セッション概要】

未来工業は創業以来、独創的な製品で高収益を維持してきたがその源泉は従業員の自律を促し、仕事や人生を楽しむことである。「ホウ・レン・ソウ禁止」、「仕事は8:30~16:45までで残業は禁止」、「年末・年始は20連休」、「本社に報告せずに支店開設」、「相談役だけだ相談するな」等である。今回のシンポジウムでは弊社の事例を紹介させていただき、日本の製造業の更なる発展・活性化のヒントを得ていただければ幸いである。

【講演者略歴】1931年生まれ。旧制大垣中学を卒業後、父が設立した「山田電線製造所」に入社。65年「未来工業」を設立し、代表取締役社長となる。91年名古屋証券取引所市場第2部に上場。岐阜県中小企業家同友会 会長、岐阜県電機工業会 会長などを歴任。2000年未来工業取締役相談役に就任。01年に勲五等双光旭日章を受賞。



## FI-1 RFID超多用“自動化”センター開設 13:10 拘りの重要性、<7+2>の拘りの成果

洋服の青山  
ITシステム部 執行役員 長谷川 清秀

### 【セッション概要】

2003年“洋服の青山”“TSC”の洋服を首都圏のお客さまへのご提案・サービスを高めるべく複合・自動化センター構想が開始。将来のために「新しい自動化機器システム」を準備する事を主軸に①品質 ②絶対単品管理 ③アソートの無人化 ~ ⑨原型実績の拘りを持って、協力会社9社と38ヶ月間の苦闘を行った。実証用機器を作成し実験を繰り返したが人知には限界があり、幾多の難問奇問に遭遇。開設以降、快調に稼動中。

【講演者略歴】1971年(株)日本総合研究所の前身の(株)日本情報サービスに入社。2002年青山商事(株)に転じ、総合企画部長、ITシステム部長を勤める。システム分野に40年余り勤務、最注力分野は①小売 ②省人・自動 ③無線 ④商品管理 ⑤イメージ処理。

## FI-2 淘汰の40年に向けた企業戦略の方向性 14:15 酒販業の経営革新を例として

株式会社 ハンプティ  
代表取締役 宮田 貞夫

### 【セッション概要】

これから始まる“淘汰の40年”に生き残る企業の基本戦略は、“商品力強化”と“独自ビジネス(ブルーオーシャン)の開拓”である。企業はこの戦略テーマのもと、“従来の常識にとらわれない柔軟な発想”を持ち、厳しい環境下で“しなやかな経営”を心掛ける必要がある。また、“しなやかな経営”を続けるには、変化を継続できるよう“小さなビジネス”でなければならない。経営革新実施の留意点は、成功するまで「仮説→実施→検証」のサイクルを繰り返すことである。

【講演者略歴】大手証券会社で財務部と海外駐在(英国現法の共同財務部長)を中心に約20年間勤務後、1999年に独立。(株)ハンプティの代表取締役として経営とITのコンサルティングを行うかたわら、大学や短大の非常勤講師、上場予定企業の社外取締役・監査役等に就任している。

## FI-3 未来組織とシステム 15:35 プロジェクトと人、そして新しい組織の仕組み

アイシンク株式会社  
代表取締役 伊藤 健太郎

### 【セッション概要】

直線的な思考や方向では組織が存続できない社会環境の中に私たちはいます。組織はどのような未来に向かって進んでいくのがいいのでしょうか。プロジェクト運営、プロジェクト成功に必要なマネジャーの要件、PMOへの期待、組織文化、教育システム、グローバル化などの切り口から組織が抱える課題と目指す方向を検討していきます。安直な解決策ではなく、直面する問題を明確にし、問題に立ち向かうための最初のステップを目指します。

【講演者略歴】NKK(現JFE)で船舶用エンジンの製造、環境プラントの国内外のプロジェクトに従事。2000年にプロジェクトマネジャー育成や診断などのPMIに関する総合サービスを提供するアイシンク株式会社設立。著書は『狩猟型プロジェクトマネジャーの哲学』(生産性出版)等。

## FI-4 経営のMVP-プロジェクトリーダーとしての社長の役割 16:40 潰れてこいと命じられた崖っぷちの会社の経営立て直しで学んだこと

株式会社ハレックス  
代表取締役社長 越智 正昭

### 【セッション概要】

ITシステムの営業・開発を担当していた演者が突然異業種である気象情報会社の経営立て直しを命ぜられ、その経営立て直しを通して、経営の本質とは、変転する市場とお客様の要求を見定めて“事業の定義”を書き換えること、すなわち、会社を作り変えることであるという基本に行きついた経験談を語ります。特に、会社の経営をプロジェクトとして捉えた時、そのプロジェクトのリーダーである社長がどうあるべきかという姿についても、実経験を通した気付きの中から語ります。

【講演者略歴】1978年日本電信電話公社技術局入社。技術局伝送部門、NTTデータ第一公共システム事業本部サービスインテグレーションBU長、気象情報会社株式会社ハレックス代表取締役社長を兼務、営業企画部長を経て、2009年6月NTTデータ退職、ハレックス代表取締役社長専任、ITCA事業戦略委員会委員。

## PS-1 一流半のプロマネが考えるプロジェクトサポートシステム 13:10 「プロジェクトサポートシステム」と「プロマネサポートシステム」の違い

富士通株式会社  
共通技術本部 本部長 柴田 徹

### 【セッション概要】

日本のプロマネは優秀だと言われる反面、属人的という指摘もある。属人性を排除するため標準化やツール化がなされてきた。富士通にもProjectWEBというツールがあるが、それも一部機能の活用に留まっている。3年前にツール提供元の部門長となり、属人性を軽減するための仕組みとはどうあるべきか、一から取り組み、3年をかけて形にした。今回はこの経験を元に、プロマネをサポートするシステムとはどうあるべきかについて実装例をお話する。

【講演者略歴】1982年、富士通に入社。証券、金融業で大規模システム開発に従事。97年、大規模投資信託システムをフルオープンで開発。03年、金融先物取引システムを海外取引所と組み稼働させる。09年より現職。ソフトウェア・サービス開発の新たな体系創造を目指している。

## PS-2 ベーコンエッグを食べながら考えたリーダーシップ 14:15 マネジャーは参加ではなく献身しなければならない

株式会社フェイスホールディングス  
代表取締役 小倉 広

### 【セッション概要】

「ベーコンエッグにおいてニワトリは参加し、豚は献身している」「マネジャーは参加ではなく献身しなければならない」。ミンツバーグの言葉である。さて、僕たちは「参加している」のだろうか「献身している」のだろうか? リーダーの役割、リーダーシップの発揮方法、コミュニケーションなどを具体例を交えながら紹介していく。  
●部下のレベルが上司のレベル ●「伝えたのに…」は何もしていないと同じこと ●何を言ったかではなく誰が言ったかが人の心を動かす など

【講演者略歴】大学卒業後、リクルート入社。企画室、編集部、組織人事コンサルティング室課長、公開前後のベンチャー企業数社の取締役を経て2003年より現職。企業の組織づくり、人材育成を支援する。著書『任せる技術』『やりきる技術』(日本経済新聞出版社)など26冊。

## PS-3 クラウド環境に必要な契約交渉スキル 15:35

株式会社ピーエム・コンセプト  
代表取締役社長 長尾 清一

### 【セッション概要】

クラウド活用が本格化してきた。それに伴い開発の超短納期化、クラウドの制約、クラウド化範囲の決定等、従来型開発を超える問題の解決を迫られる。この環境下、PMは多数ステークホルダー間の利害を調整し、顧客のIT戦略に影響を与える交渉力が求められる。特に、保守運用面の重要性が増すクラウドでは開発前から「サービスを売っていく」視点で契約交渉を行わないとプロジェクトは失敗する。本セミナーでは、この契約の交渉ポイントと交渉担当者の必須スキルについて述べる。

【講演者略歴】UCバークレー校ビジネススクール卒MBA取得。大規模プロジェクトを15年間指揮監督。93年よりPM専門の米国企業アジア総責任者として7ヶ国でPM研修を実施。93年PMP®取得。97年(株)PMコンセプト設立。近著に『問題プロジェクトの火消し術』『ベンダー・マネジメントの極意』。

## PS-4 海外事業展開に必要なグローバル人材 16:40 契約マインド+技術=コントラクトエンジニアリング

ベクトル 大野 紳吾  
大成建設株式会社 梶浦 久尚

### 【セッション概要】

海外プロジェクトで日々発生する予想外の事態に、適切に対応するにはどのような能力が必要か? そのような能力は、経験によってしか培うことができないのか、それとも学ぶことで習得できる知識なのか? 『契約マネジメント』は、欧米の大学では建設工学の必須学科であり、専門的な職業や資格が存在する。日本人エンジニアには取っ付きにくい、この知識領域が、海外事業展開成功の最大の鍵であることを、実際のプロジェクト事例を交えて発表する。

【講演者略歴】大野 紳吾: 京都大学工学部建築学科卒業、IE Business School MBA修了。一級建築士、SixSigma グリーンベルト。梶浦 久尚: 東京工業大学建築学科卒業、情報環境学修了。King's College London 修了。一級建築士、Chartered Civil Engineer、Fellowship Chartered Arbitrator。